

国際協同組合年・県連創立 **45** 周年記念

## 「第 41 回広島県生協大会」を開催しました ～月尾嘉男さんの講演で協同組合の社会的責任を確認～

10月25日（木）、於 メルパルク広島

国際協同組合年と広島県連創立 45 周年が重なった今年の生協大会。

『県連の 2020 年ビジョン』も発表し、新たなスタートの位置づけで開催しました。

行政ならびに関係団体から 25 団体・49 名の皆様の参加を得て、全 220 名の参加者と、月尾嘉男東京大学名誉教授の記念講演と北欧視察研修報告を聞きました。

地球環境も経済も厳しい時代だからこそ、協同組合間協同を強め、地域のみなさんと一緒に「誰もが安心してらせる地域コミュニティの再生をめざして」取り組み、社会的責任を果たす決意を新たにしました。

以下、概要をご紹介します。

### 記念講演

月尾嘉男東京大学名誉教授(工学博士、冒険家)をお招きし、「国際協同組合年と環境共生型社会」をテーマに学びました。

世界各国の先住民族を訪ねた際の鮮やかな写真と共に、環境問題を中心に、現在社会が抱える様々な課題と、持続可能な社会にするための経済のあり方や相互扶助の普遍性について、お話しいただきました。ボランティア経済やフェアトレード等、生協が確信をもって進むべき方向性についても、確認できました。

地球規模の課題について、明快かつ温かな口調でわかりやすくお話しいただき、生協組合員・役職員はもとより関係団体の皆さんから、学ぶ点の多いアカデミックな内容だったと、高い評価の声が寄せられました。

改めて、協同組合間の協同のあり方や地域への関わり、社会的責任について、グローバルな視点で考えさせられる、記念の年にふさわしい講演でした。



グローバルな内容を明快に温かく語りかける月尾先生



講演に引き込まれる参加者



### オープニングコンサート

～東日本大震災 復興支援継続の思いを込めて～  
(ヴィオラ：沖田孝司さん、ピアノ：沖田千春さん)

東日本大震災チャリティーコンサートにも精力的に取り組み、地元広島で音楽を通したつながりづくりを大切に活躍しておられる 沖田孝司さんのヴィオラ演奏で幕を開けました。被災地に寄り添った復興支援の継続を、参加者のみなさんと確認しました。

◀温かさが染み渡る沖田さんの演奏

## 式典

### ・パン・ギボン国連事務総長 国際協同組合年へのビデオメッセージ

標記ビデオメッセージ（2011年ICA総会へ寄せられたもの）を冒頭に上映し、ご来賓や関係団体の皆様にも、国際協同組合年の意義をアピールしました。



来賓祝辞：湯崎英彦知事

### ・主催者挨拶、来賓祝辞

主催者挨拶では、岡村会長理事より、FEC（Foods, Energy, Care）自給圏づくりとセイフティネット、平和の確立など、県連2020年ビジョンに基づき進めたいとの挨拶がありました。

続いて来賓祝辞は、湯崎英彦広島県知事、佐伯克彦広島市市民局長、村上光雄広島県協同組合連絡協議会会長（JA広島中央会会長）の3名から、災害時協定や消費者被害防止、平和や福祉等、くらしの安全・安心への生協の幅広い取り組みへの評価と期待のご挨拶を頂きました。

今年は、行政と関係団体（各協同組合、消費者団体、被爆者団体、社協、ユニセフ、環境・福祉・平和等NPO、ワーカーズコープ、中国新聞社等）から、25団体49名の皆様に参加頂きました。

#### <ご来賓>

湯崎英彦 広島県知事、 佐伯克彦 広島市市民局長  
村上光雄 県協同組合連絡協議会会長、 山下三郎 県社会福祉協議会会長  
湯浅敏郎 広島平和文化センター常務理事、 清田清美 県消費者団体連絡協議会会長  
北島國廣 県労働者福祉協議会事務局長、 人見昭生 日本生協連中四国地連事務局長



### ・創立45周年記念 功労者表彰授与

組合員枠4名、役職員枠9名の被表彰者に、表彰状と記念品が授与されました。被表彰者代表挨拶では、尾野展昭広島修道大学生協前理事長（現広島医療生協理事長）より、終戦直後の困窮した食糧事情とその後の食の安全を取り巻く厳しい時代の中で生協が果たしてきた役割や、今後の生協活動への期待が述べられました。役職員一同、生協を献身的に支えてこられた先達方に学び、組合員の皆さんと歩む決意を新たにしました。



表彰状授与

## 国際協同組合年・県連創立45周年記念「北欧視察研修」報告

福祉と自然エネルギーの先進事例を学ぶため、北欧を視察研修した報告を、高田公喜県生協連常務理事（生協ひろしま常務理事）が行いました。

福祉分野では、スウェーデンの生協の高齢者住宅等の事例や、エネルギー分野ではデンマークのロラン島という田舎が、自然エネルギー100%自給を実現し「世界最先端の島」となった事例などが報告されました。「福祉（Welfare）」の本来の意味が「しあわせ」「ゆたかさ」であることを改めて考えさせられる報告でした。



高田常務理事

- ※ この研修は、国際協同組合年を機に「人間尊重のくらしづくり・地域づくりを推し進め、自立・協同・連帯の力で地域循環型社会経済システムの形成に貢献する」という県連『2020年ビジョン』に基づき、県生協連が主催したものです。
- ※ 今回の参加者は、生協関係者の他、JAやタカキペーカーリーはじめ、環境カウンセラーや福祉研究所、1級建築士（都市計画）、ファイナンシャルプランナーや色彩プロデューサー（アート福祉）など、これまで生協連と環境・福祉・生活設計等について連携・研究してきた様々な分野の14名でした。現地では各分野の専門的知見による広範な質問が出され、学び豊かな研修となりました。
- ※ 大会当日は、参加者の平井中国新聞社記者の新聞記事（6回連載）も一緒に資料配付しました。

以上